

## 議 事 録

- 1 会議名 第3回さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 日 時 平成27年9月2日（月）10時～12時
- 3 場 所 さぬき市役所3階302会議室
- 4 出席者 （ 委員 ）  
 安岐委員 朝倉委員 石川委員 岩村委員 公庄委員 佐藤委員 多田委員  
 徳地委員 福家(弘)委員 福家(良)委員 六車委員  
 （ 市 ）  
 穴吹総務部長  
 総務部政策課 白井課長 津村係長
- 5 傍 聴 8名
- 6 会議次第 1 開会  
 2 座長挨拶  
 3 議事  
 (1) さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について  
 (2) 人口ビジョン骨子、総合戦略骨子及び人口ビジョン素案について  
 4 その他  
 5 閉会
- 7 配布資料 ○ さぬき市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員名簿（平成27年6月26日現在）  
 ○ 【資料1】さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略素案  
 ○ 【資料2】さぬき市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）  
 ○ 【参考資料】「かがわ人口ビジョン」（案）「かがわ創生総合戦略」（案）概要
- 8 議事の経過及び発言要旨

＜ 開 会 ＞ （ 10：00 ）	
事務局	<p>第3回の有識者会議を開催いたします。前回の会議から早2か月近くが経過しておりますが、この間総合戦略の4つの基本目標ごとに具体的な施策につきまして、各担当部局とヒアリング等を行いながら、素案の取りまとめを行ってまいりました。作成過程といたしましては、8月13日に市の本部会議、それから19日に議会の特別委員会等での審議を経まして、今回、素案の第4稿としてご提示をさせていただいているところでございます。この間、またこの前後に大小細かい部分も含めまして修正をしてきておりますけれども、本日の有識者会議のみなさまからのご意見もまた反映させたいというふうにご検討しております。前置きの方が長くなりましたけれども、それではただ今より開催いたしたいと思っております。多田座長の方からご挨拶と議事進行の方をよろしくお願ひしたいと思っております。</p>
座長	<p>みなさんおはようございます。本日の会議は、素案の検討ということになりますが、10月中旬ぐらいに行うパブリックコメントで、市が市民の方に公表する素案づくりの最終チェックということになっておりますので、本日も色々ご審議あるいはご議</p>

論していただきますけれども、あくまでも市民の方に公表する内容というものがこれでよかろうというものにしていきたいと思っています。なお、パブリックコメントで公表するものは、すでに市からみなさんにお渡ししているとおおり、総合戦略の素案と、人口ビジョンの素案です。早速ですけれども、本日の会議に入ります、まずこの素案についてのみなさんのご意見をおうかがいします。その後、人口ビジョンについて。お手元にあるのはダイジェスト版になっていると思いますけど、それについてのご意見をいただきます。終了時刻は12時を目標にしていますので、まず1番目の総合戦略について11時半～40分程度を目途に、みなさんのご意見を伺いたいと思います。では、事前に市から皆さんに郵送されました素案第4号、たくさんの方が書いてありますけれども、お読みいただいているかと思しますので、これについてお話を伺いたいのですが、18頁くらいまではアンケート結果などをまとめたもの、後半18頁からが本格的な実施施策となっておりますので、どちらかと言えば18頁以降の実実施策のところについてご意見をいただきたいと思ひます。

それでは、資料を元に戻しまして、目次をご覧ください。1頁目は主旨、2項目は基本理念。これは総合計画と同一であり、守り、つなぐことで進化していくという、さぬき市の長期的な展望が読み取れます。3頁は、市の置かれている状況。4頁目からは市民アンケート結果を掲載しています。4頁の下に出典がありますが、これは25年の6月に行ったアンケートから戦略と関連が深い内容を抜粋しています。4頁は愛着の話。5頁はリフォームとそれから新築件数の支援数値。6頁は働く場所の、事業所の数。ちょっとグラフが煩雑になっている感もありますが、これは国のシステム（RESAS）から抜粋しています。7頁は事業所に関連して、従業員数の動きですね。8頁は創業比率ということですが、全国や県平均と比べて、さぬき市はちょっと落ちてきているのが分かります。9頁は賃金ですね。若い人20～24と25～29歳を2010～13年、香川県は、都会である東京、大阪、兵庫県、隣の徳島県、全国平均と比べると、若い人は9万円下回っていて、25～29歳だと全国平均よりややいいと、こういうふうな数値になっています。それから10頁～15項までは、アンケート結果に基づく市民の方の意識、あるいは注目、関心度となっています。それらを総括しまして、16～17頁にさぬき市が各部署間で政策を進める中で、目標であるとか、基本となる考え方を書いていますが、16～17頁の内容については、私から説明するよりも、事務局として何かコメントがあればお願いしたい。何かありますか。

事務局

今回の総合戦略は、総合計画に基づき、その総合計画の中で取り上げている課題の中でも特に人口減少対策というものに注目して作り上げたものです。ですので、総合計画を、ある意味では補完するもの、一部内容を具体的に示したものとなりますので、総合計画を策定した時の25年の市民アンケートを活用しています。このアンケート結果を見ると、特に、働く場をつくるということが、移住者を増やす、であったり、定住者を増やすということにとっても重要であるという市民の多くの意見を踏まえまして、働く場に関する内容が現状どうなっているのかということを見直すという意味で、今回、国の方から出ましたRESASというシステムから、事業所数と従業者数と創業比率と一人当たり賃金というものを抜き出して掲載させていただきました。

16～17項では、これらの結果をもとに、さぬき市の強み、さぬき市の弱みということで取りまとめております。ご覧いただくと分かりますが、さぬき市は、京阪神、都会へのアクセスが良いということであったり、市民が市に愛着を感じているということも読み取れること。家を建てたり大きなリフォームをするということは、ここに定住するという思いが感じられるということで、そちらの方も順調に推移している等々、アンケートとRESASの結果を踏まえて、強みと弱みというものを抜き出しました。この内容や考え方については他のご意見もあろうかと思ひますが、15項までの総括として、その中で読み取れるものとして書かせていただいた内容となってい

	<p>ます。その強みと弱みを踏まえ、今後さぬき市としては、愛着度と定住意向を更に深めていくことが必要だと考えております。まず移住者を増やすということも大事なのですが、さぬき市から転出していく人数を減らすということもやはり定住人口を維持するためには重要なポイントと考えておりますので、愛着度と定住意向をまずは高めていくことが重要だと考えています。そして、ファンを増やすためには、やはり来ていただいてここはいいと感じていただける、交流人口を増やす取り組みというものも大事だと考えております。</p> <p>そして、若者に魅力のある雇用に魅力のある雇用環境の創出、創造が必要。ここにも書いておりますけども、やはり従業者も減っておりまして、縮小傾向にはあります。特に創業が少ないというさぬき市の特徴がございますので、企業誘致も大事に考えてはおりますが、市内で頑張ってくださいしている中小の事業所さんを何とか盛り上げていく、そして雇用創出につなげていくということを、さぬき市としてはこの5年間特に頑張っていかなければいけないと考えております。そして前に有識者の皆さんからもご意見をいただいたことですが、新卒者がさぬき市の中小に就職しないのは情報を知らないことも一因であることもお聞きしましたので、インターンシップの推進であるとか、就職マッチングの強化、こちらの方も強化しながら、何とかさぬき市で暮らし、働くという選択をしていただけるように取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>そして最後に、さぬき市で子育てをしたくなるという環境づくりです。「子育てしやすい」というのは良く聞くフレーズですが、「子育てをしたくなる」という大きな目標を立てまして、さぬき市は取り組んでいきたいと考えております。特に仕事と子育てが両立できる環境づくり、こちらについては、私の周りの子育てしている女性からも、賃金もちろん大事だけど、やはりワーク・ライフ・バランス、定時に来て定時に帰る、そういうふうな働く場っていうのは本当に魅力的だという声を本当に多くお聞きしますので、ワーク・ライフ・バランス等々を企業さんとともに、なんとか実現できるように取り組んで、働く者にとって魅力ある企業がさぬき市には多いんだぞということもPRしていくことが重要であると考えますし、アンケートで期待度の高かった教育にも力を入れながら、子育てをしたくなる環境づくりを進めていきたいと考えております。</p> <p>この3つを大きな目標といたしまして、最後下矢印の方になるんですが、いつまでも市民にとって住みよい住み続けたいまちであり続けることが人口減少対策の最重要ポイントと考えます。特に地域の宝である子どもたちが生涯に渡ってさぬき市で暮らしたくなる気持ちを高められるよう、子どもを産み育て、高齢になっても安心・安全に生活できるまちであるということを、子どもたちにも想像してもらえるように、人材と自然と歴史、文化、こういった地域の誇るべき資源を新たな視点で融合させていく。これは、守る、つなぐ、進化する、の基本理念にも結び付きますが、いいものを守り、いいものを新しいものにつないで進化していく。こういうふうな目標を持って、下の基本目標4つの視点で活力、うるおい、安心づくりにチャレンジしていく、このようにまとめさせていただいております。</p>
座長	<p>ありがとうございました。ここまでで何かご意見とかコメントはございますか。ないようですので、いよいよ18頁から、今度は具体的な施策の議論に入ります。繰り返しになりますけれども、これ以降は、市の各部署や所属で議論されたものをまとめたものとなっています。では、最初に18頁の基本目標1の「働く場をつくる」について、事務局から簡単に説明をお願いします。</p>
事務局	<p>&lt;ページ内項目説明&gt;</p>
座長	<p>ありがとうございました。それでは、基本目標1について、実際にどうするかとい</p>

	うことで、具体的な施策について、皆さんのご意見等をお伺いしたいと思います。
委員	大変網羅されているとは思いますが、基準数値というのはどういう基準で出しているのか。例えば新規創業ですが。
事務局	例えば新規創業でしたら、創業支援計画に基づいて支援したケースということになっています。K P Iについては、各課の方で自分たちが取り組みを進める中で、31年には、最低ラインとしてクリアしたい思いを目標数値として掲載しているので、算出根拠の具体性に欠けるところもあり、申し訳ないのですが、このように取りまとめております。
委員	新規創業とか第二創業については、さぬき市が特別に少ないわけではないと思います。実態を市では掴みきれていないというか。商工会でも新規創業について取り組みをしていますし、各金融機関も新規創業には資金を出していますんでそういうのを全部合計するともう少し件数は上がると思います。また、市内に新しい産業や企業もあるので、そのあたりをマッチングさせて、市も成果として上げるということも考えていかないと、市の窓口とかに来た人といったふうに限定しても、実情がはっきりしない。そのあたりは各金融機関とか商工会で申し込まれた件数というのも、入れるべきだと思います。そうでないと実態把握にならない。そういう情報公開もできると思いますので、中小企業の着手事業とかについても、どの金融機関も一生懸命やっていますので、市にはなくても、県に行けば分かるものもあると思うので、情報公開を求めていく中でK P Iを定めないと成果がはっきり見えてこないと思う。新規創業は件数で言うと、商工会支援実績なども入れれば、実際数値目標としては5件というのは、そんなに大きな数字ではないと。
事務局	この件に関しては、創業支援事業計画に基づく事業を広めていきたいとの商工観光課の要望がございます。
委員	出されている計画に基づいていけば、様々な支援があるということもあるが、成果として捉えるには、やはり不足があるように思う。商工観光課と再度検討してください。
事務局	分かりました。ご意見ありがとうございます。
委員	新規創業や第二創業に関する意見だが、関係する制度について、事業者自身が知らないということがまず1つと、制度を知っても、内容を理解して申請書などを自ら作れるのかどうかという不安があるし、実際にハードルが高い。商工会でも色々と教えてくださったりはしますが、そこまでたどり着くのも難しい場合がある。商工会や市のほうで、そこらあたりを支援していただくとありがたいと思います。
座長	今、市で、制度のP Rとか、マッチングとか、どういうふうな現状になっていますか。
事務局	商工観光課で取り組んでいます。あまり活発ではないと聞いています。
座長	中小企業の支援について、商工会はどのような状況でしょうか。
委員	いろいろな制度があります。市の所管課は商工観光課となっていると思いますが、

	<p>商工会で行っている事業のほうが多いと思いますし、窓口については、商工会の方ですべて行える形になっているかどうかまでは把握していないが。</p>
事務局	<p>商工会が窓口となっているケースがほとんどと聞いています。</p>
座長	<p>商工会が、こういう話をご存じで、各種手続きや相談業務をやっていただくという流れが、ちょっと、まだできていないのかなあという気がする。</p>
委員	<p>各金融機関でも、創業支援とか、第二創業のセミナーとかはやっていきますし、実は商工会とも今、いろいろと詰めて、協力してやっていこうという話が出ています。ただ、やはり市の商工観光課なりから、色々な情報とか、逆に言えば、例えば、新しく創業する気持ちがあっても、もう計画が決まっているというケースはほとんどないんですよ、実際には。こんなものがあるよとか、こういうところまでしたいよというような情報は、やっぱり一番市の方が持っていると思うので、そういう連絡会とか、情報交換をしていったら、全然難しいことではないと思う。</p>
委員	<p>商工会としての役割が十分にはっきりされていないという指摘もあると思いますので。これを機会に、金融機関や市の担当課とも連携を密にしてやっていきたいと思う。</p>
事務局	<p>商工観光課も、中小企業などの地元ニーズの的確な把握ということを、戦略の中でも一番上に書かせてもらっている。市内企業に対する相談業務とかについて、市としての関わりが薄かったのではないかと考えているところで、ビジネスマッチングも含めて強化していきたいという思いがありますので、ご意見があったことは担当に伝えておきます。</p>
委員	<p>私たちのような、普段、仕事をしている中でもハードルが高いと感じることがあるので、創業する人は、とてもそこまではいけないのが現状かなと思う。もっと窓口を広げたらと思う。</p>
座長	<p>ハードルが高いというのは具体的には何なのか。書類の書き方が分からないということは良く聞きますが。</p>
委員	<p>そうです。書類はとても特殊で、やっぱり、申請書を書く専門の人じゃないと、私たちが、会社の中で書けるようなものではないと思います。本当に、商工会の職員はレベルが高いので、相談を持ちかけたら助けて下さるのですが、そこまでたどり着けない人がたくさんいらっしゃると思うので、どういうところでPRできるのかはわからないが、多分、新規創業する人は、書類を書くところまでがまた大変だと思うので、その辺のことも含めて支援できるといいのではないかと、と思います。</p>
委員	<p>今おっしゃられたことをやるのが商工会の職員の仕事なんですよ、指導員の。難しいもろもろの申請書、これは全て商工会でできますから。ただそこまで持っていくのが、というご意見でしたね。行けていないということですね。</p>
座長	<p>他にございますか。この指導とかで。もうひと方。銀行からどうぞ。</p>
委員	<p>数値の目標ですとかね、その決め方ですとか、そういうところ私も同じ意見でございまして。ただ色々なハードルがあつてですね、なかなか一般的には難しいという</p>

	<p>ころの話はよく理解できます。当然、各金融機関で、創業支援のところから販路開拓、そういったところまで総合的にサポートする体制というのはどこの銀行でもとられているというところなんですけども、やはりなかなか発信ができていないというところも事実だと思います。例えば我々の銀行で申し上げますと、新規創業の方には、「あしたの経営者のための創業ガイド」という冊子をつくってご相談に応じております。創業時の準備、どういったことを準備しなきゃいけないんですかっていうところから考える、あるいは資金計画といったところ、あるいは税金の話であるとか、それから総合計画書作成に至るまでの書式的なイメージをまとめたものを準備しながら相談を受けています。ただ、創業の想いをいきなり金融機関にぶつけていくというのも難しいところがあるかと思しますので、市や商工会などと、そういったことに関する仕組みづくりも含めて、相談しやすい環境を整備していく必要があるのかなと思う。実際、しっかりとサポートはできるようになっているのですが、最終的に、国とか県とかの補助制度などを利用しようとすると、なかなかハードルが高い。事業所内部だけで申請書をつくりあげる、計画をつくりあげることになると、非常にハードルが高い。商工会では、そのあたりに非常に力を入れておられるので、銀行に相談に来られた方を、逆に商工会におつなぎさせていただいたりとかいうこともさせていただきまますし、場合によってはコンサルタントをご紹介させていただいたりとか。ただコンサルタントは費用がかかりますので、政策の中で補助金を出すことも必要かもしれない。このように、総合的にハードルを下げるというような取り組みが必要になってくるのではないかと、思っています。</p>
座長	<p>どうもありがとうございました。K P Iについてもこれで実行可能だということのお話が出たと思うので、ここの項目についてのご意見がほかにあれば、また後であればよろしくお願ひしたいと思ひます。次に 21 頁の農林水産振興というところですが、まず、ヒラメの陸揚量が、現在 8.9 t で、31 年も 8.9 t となっている。なぜ増えていないのか、違和感があるのですが。</p>
事務局	<p>所管課の農林水産課と、これはどういう意味なのか協議したのですが、農林水産課としては、魚が育つには、水質環境など、色々な要素が関係しているので、放流した稚魚がすべて陸揚されることはないで、今の量から単純にプラスできるというものでもない、と。よって、稚魚の放流事業であったり、環境保全事業などを行う中で、横ばいという数字を最低ラインとして維持していきたく思っている、という回答でした。政策課としては、分かりました、と伝えながら、有識者会議でまたご意見をうかがいたいと思ひます、と答えております。</p>
座長	<p>一定にすること自体が非常に難しく、クリアすべきものがあるんだということですね。わかりました。では、ここの項目のK P Iですけども、ご意見やコメントをお願いします。</p>
委員	<p>さぬき市の農業ですけど、色々なものが採れますから、あまりにも目立つものがないので、トップセールスを行っても、なかなか難しいところがあると思う。この前聞いたのだが、食品加工場がある関係で、大量のキャベツが必要で、それが足りていないと聞いた。そういうふうに、需要があるのに追いついていないという現状がある。戦略の中にオリーブが上がっているが、オリーブの産出を増やしていく方針だったら、ここで加工できる施設を作らないと、オリーブは生物なので、よそに運んで加工するようになったら、オリーブの鮮度が落ちる。小豆島も盛んだが、とても大変なようだ。オリーブをやるんだしたら、最後に自分たちで売れるとこまでを考えていかないといけない。ワイン工場の二の舞にならないように。今、オリーブはいろいろなど</p>

	<p>ころでたくさんやっていますし、遊休農地の活用には効果的とは思いますが。ただ、相当な覚悟決めないとやらないと、オリーブを摘果する時の人員も必要だ。熟れたやつから順番に採っていかないといけない。将来的には外国のように、ゆすって落とす方法に変わるのではないかとやっているが、今の状況は、ひとつずつ全て手で取っている状況。この辺の、摘果方法まで考えてないと、作ったが収穫できないというような状況が続くと聞く。それと、6次化のこと。私も取り組んでいるが、ひとつの段階まで踏み込んだらうまくまわるのだが、そこが一番厳しい。しかし、やっていると、踏み込んだ情報もどんどん入ってくるので、踏み込んで行ったらいいと思います。それと、先程から言われていた、色々なことをやるときの窓口だが、さぬき市という窓口じゃなくて、さぬき市に、地方創生なら創生の、いい方は悪いんですけど、政策課が片手間にするのではなくて、政策課には、政策関連の、かなりたくさん仕事があると思うので、そうではなくて、創生なら創生の課をつくって、何人かで、色々な地元を歩き回って意見を聞き、情報も取り、どんどん推進していかないと、やっぱりなかなかそれは前へ進んで行かないと思う。善通寺市では、そのために、今までの職員と考え方の違う、他の業種の人を雇って仕事をお願いしているという。このように、形を変えてやって行くことも必要だと思います。農家もやはり、地元のことばかりでなくて、色々なところ出かけて行って、視察してきたらいい。そして、1人ではいくら頑張ったって無理なことがあるので、何人かと一緒に取り組み、やっていく、そういう体制をつくっていかないといけないと思う。</p>
委員	<p>今言われたことですが、今年で3年目だと思いますが、地域おこし協力隊というのがありますね。いわゆる違った目線でね、色々さぬき市を見ていただいてやっていただこうというのが、目標だと思うのですが、私の知り合いが、竹細工を一緒にしていた方は、3年経たずに辞めたと思う。理想に燃えてその方は来ていたはずだけれども、なぜ辞めちゃったのかと思う。そのへんを僕はきちっと調べて反省をして、生かさないとだめだということと、あとまだ数名残っておられる方たちが、この間に感じたこと、今やっていること、やりたいこと、どういう点でつまづいたのか、そういったことを、僕は次回の会議でまた報告していただきたいと思います。じゃないと、ここに書いてある色々な施策がありますが、全然悪いところはない。この通りできればすごい市ができると思う。でも、実際どうなるかと。だから僕としては身近な人でそういう人がいたら、それはきちっと報告していただいてやらないと、また色々な施策が同じようなことになるのでは、と思います。</p>
座長	<p>KPIはこれでいいが、本当にこれはできるのかというご意見と理解しておきます。時間の都合もありますので、次は後継者不足に関する項目について、どなたでも結構なので、ご意見をお願いします。</p>
委員	<p>県外からの就職希望者とのマッチングに苦労している。インターンシップの受入も毎年しているが、去年が2人で、今年も2人来てくれることになってはいるが、おそらく、香川県で就職したいと思っても、なかなかどういったところに行ったらいいかわからないと思う。私ども企業がもっとPRに出かけて行けばいいのだろうが、社内の人員不足で、そんなに多くに出かけて行き、学生たちにPRできていない。だから、例えば、さぬき市として、学生たちに広くPRして、さぬき市の中にはこんな企業があるんですよということで、例えば、複数の事業所に、学生を連れて回ってくるとか、そういう切り口のPRも面白いかな、という気がしています。</p>
委員	<p>ちょっと質問ですが、さぬき市はTwitterやFacebookあるの。</p>

事務局	市の公式ページは、ないです。
委員	それはいかん。ツイッターや Facebook を使って若い人に PRしないと。それはまずい。本当に、PR でチラシなどを配るよりずっと反応がいい。
委員	ホームページがあればいいと思っているかもしれないが、あれは役に立たないよ。
座長	前も出ましたね、情報発信の問題は。市の課題として。
委員	さぬき市の情報を出さないとダメだ。Twitter や Facebook でね。若い人は答えてくれる。彼らは絶対書き込んでくるよ。実際に書き込みが来ている。
事務局	地域おこし協力隊は Facebook をやっています。ただ市の公式の Facebook やツイッターといった取り組みがちょっと薄くてできていない。結局、どこが担当するのかというところから始まって、なかなか取り組めていない。
委員	やはり、地方創生課というような、そこでやった方がいいですよ。
座長	当たりの悪いところがあぶり出てきている感じがありますね。
委員	実は、今日言おうと思って、持ってきたものがある。この前、新聞にこれが挟んであったんですよ。「ハッピー」というところを見まして、ああ、さぬき市にボランティアセンターがあるんだ、と知りました。ずーっと見たのですが、どこへ電話したらいいかわからないし、一体どういうボランティアを募集あるいは要求しているかということがこれではわからない。おそらくホームページを開いたら何かあるんだろうと思って、ボランティアセンターっていうのを検索したら出てきまして、趣旨の次に、各グループの名前がずーっと書かれていた。グループの名前は出てきているけど、さて、具体的に何をしているのかということがわからない。例えば、雰囲気的に僕が理解しているのは、何かボランティアしたいな、と思う人は登録する。反対に、こんなボランティアをして欲しいなという人は、それを言う、それを、このセンターでマッチングしているのだからと思うのですが、どんなボランティアを希望している人がいるかとか、全然それがわからない。例えば、具体的に、ある人が「私こんなボランティアします」って並んでいたとしたら、それを見た人は、「あ、こんなのもボランティアになるのか。じゃあ私は、これによく似たこんなことしようか」とかを考えることができると思う。それとまた、「こういうボランティア頼んだら来てもらえるのか」ということがわかれば、「じゃあちょっとお願いしようかな」と、思えると思う。しかし、配布されたものには具体的なものが載っていない。で、ホームページを見ても、あんまり載ってない。例えば、買い物支援などをしていただきたいような、高齢者の方が、ホームページまでわざわざ探して何かあるかを見ますか。だから、若い人には Twitter とかね、そういうものでどんどんお知らせするし、年配の方に配布する広報物は、見て、役に立つ内容にしないとイケない。
座長	ありがとうございます。ちょっと K P I から話が外れていましたが、次に行かせてもらいます。次は 24 頁、今度は地域振興と知名度に関する内容について、地域・産業・言論分野の視点からご意見を伺いたい。この K P I に関して、これでよろしいですか。
委員	19 頁に、市有地の有効活用というのがありますが、さぬき市の市有地はどのくら

	<p>いあるのか。各自治体とも土地開発公社で土地を確保して、企業誘致する、進出する企業に対して便宜を図るということがありましたよね。さぬき市の場合はどのようになっていますか。</p>
事務局	<p>公社の保有地については今処分が進んでおまして、今残っているのは鶴羽にあります鶴部工業団地の区画がいくつか残っているのと、大きくはないですが、旧志度地区の武道館跡地が残っているのと、造田の駅前の、当時、雇用促進住宅用地として確保してあったところが残っているのと、あともう1つ、4箇所くらいです。下所は市有地に戻していますので大きくはそんなところだと思います。</p>
委員	<p>学校施設用地はどうなっているのか。</p>
事務局	<p>学校施設用地は、市有地の部分と、一部借用している借地もあります。学校跡地についてはこれから廃校になったものの利活用を促進していきますが、かなりの面積が残っています。</p>
委員	<p>その土地は今、どこが管理しているの。</p>
事務局	<p>土地開発公社のものについては政策課の方が担当していますので、公社として管理しています。学校跡地につきましては、用途が決まって行政財産になったものは、担当する部署が管理しておまして、それ以外の部分は、旧学校施設として教育総務課で管理をしています。</p>
委員	<p>さぬき市は、土地開発公社まだあるのか</p>
事務局	<p>まだございます。</p>
委員	<p>土地開発公社の中に1つ大きいのを抱えている。まだ残っているでしょ、山が。</p>
事務局	<p>それについては、小田峠として昨年度全て買収が済んでおります。今、さぬきの森森林浴公園の2期目の拡張工事ということで、ちょうど今年7月ぐらいから今そこに入っているところです。最大そこで13億ぐらいの借金があったんですけども、一応今のところ、それは解消したということになっております。</p>
座長	<p>観光についての話に戻したい。</p>
委員	<p>観光の中で色々お書きにいただいているわけですが、先程から話が出ていましたけれど、大事なのはやっぱり魅力発信の強化がございます。情報をいかにして発信をするかということが非常に大事だろうと思います。特に、さぬき市のようにある程度中心地から距離があるところは、特に情報発信をすることによって、人に来てもらうという必要があるだろうと思いますので、特に情報発信に力を入れて欲しいという気がいたします。色々書かれていますので、網羅されていると思いますが、平賀源内、それとお遍路さん。これを核にして進めていただければいいんじゃないかなというふうに思っています。以上です。</p>
座長	<p>他にありませんか。</p>
委員	<p>先程から、学校跡地とか色々な話が出ていますけど、さぬき市に野球場がいく</p>

	<p>つもあったと思います。この前、高橋君（浩司、元・楽天ゴールデンイーグルス）が、さぬき市の津田で行っていた子どもの野球教室を、高松に場所を移したと聞いた。これは大変な話だと思う。地元のジュニア野球もいろいろ活躍しているので、野球場を利用して全国からイベントや大会などを集めてくるとか、合宿もできると思う。既存施設を活用して観光につなげていく。でも、ただ単に観光に来るのではなくて、来て何かをして帰って、また来るっていう、そういうことを求めていかないといけないと思う。だから、高橋君なんかは、ジュニア向けの野球教室をやっていると、大会などを呼べると思っていた。だから、地元にいる人もうまく使っていく。高橋君にしても、漁師をやりながら頑張っているの、さきほどの、農林水産業の水産分野とも連携させて観光分野に取り組む。そういうことが一番大事だと思います。</p>
委員	<p>25頁ですか、魅力発信の強化中でのKPIに、津田のサービスエリアは除いた観光地入込客数と、その下にサービスエリアの売上額書いているのだが、これは何か意味があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>まず、観光地の入込客数を伸ばすという目標は、基本目標1の数値目標として書いております。KPIでは、この数字からサービスエリアの客数を抜いているのは、以前、総合計画を策定する際に、観光地見込客数といっても、サービスエリアについてはトイレだけで立ち寄りの方もいらっしゃるの、そこは無視してカウントした方が市内の観光地に立ち寄った人の数字としては正しいのではないかと、当時の商工観光課のほうから意見がありましたので、今回も、総合計画と同じ考え方のKPIを1つとらせていただきました。そして下の売上額については、道の駅とかサービスエリアといった施設での利用がどれだけ伸びているかということについては、立ち寄りの人数だけではなく、実際に売り上げた額も非常に重要であると考え、売上額も伸ばしていくという思いで掲載しております。ただ、高速道路が、徳島のほうも完成したことによって、実際に、高松道を通る車の台数が減ってきている現状を踏まえて、最低でも、流れが悪くなる以前と同じ位の売上額は維持していきたい、ということで、さっきのヒラメと同様なんですけれども、まずは、最低でも横ばいを維持したいということ思いのもと、2つの視点でKPIと目標数値を記載しています。</p>
委員	<p>高松道がより盛んになるのが平成30年度末と言われていて、通行量は今以上に当然増えていくと思います。だから、対向片側1車線では渋滞もあるし、いろんな面で事故にもつながりますので、4車線化を進めているわけですが。津田のサービスエリアは、公社の中に入っていますし、公社の管轄には、みろくの道の駅などもあったので、わかりました。ここでのKPIの意味合いは、通行量は分散するでしょうということで、今以上に通行量は増えないという予測のもと、津田サービスエリアの客と売上を維持させていくということですね。先ほどと一緒に、5年後の目標だからそれほど深い意味合いはないんですね。</p>
座長	<p>また検討しておいてください。僕も少々違和感がある。</p>
事務局	<p>分かりました。このKPIは再考します。</p>
座長	<p>ちょっと急がせていただきまして、26頁の基本目標2です。一応3つ、26頁に書いてあります。数字の話とか、増減とか、満足とかっていうのは三角の意味っていうのは事務局の方でまた説明するだろうと思いますが、KPIなどの内容について、ご意見をください。</p>

委員	<p>5年前にさぬき市に移住してきた人間ですから、これはなかなか興味があるんですが、確かに農地付き空き家の提供というのは、魅力がありますね。それが、僕は数学の講演が多いんですが、一度だけ、田舎暮らしを体験する講義を、読売新聞社に頼まれて大阪でしたことがあるんですが、退職前の方がご夫婦で、300人くらいの会場を満員になるくらい来られまして。やっぱり退職した後は田舎と言いますか、あんまり田舎も困るんでしょうね、あの人たちも大都会の生活に慣れていきますから。かといってマンションなんかで家事1つの生活にはなんかこう、いやな感じを持っている方がいまして、やっぱり畑仕事ができ、というのが参加者の中で多い希望でした。だからそういう意味でも、ここは神戸、大阪にも近いし、かといって本当の田舎でもないし、非常にいいことで、この農地付き空き家の提供というのは、僕らあたりの年配のリタイア世代は集まるんじゃないかなと思います。それともう1つ。僕は、以前は大阪には車で行っていましたが、最近、高速バス。津田のサービスエリアの高速バスの乗用車の駐車場はいつ行っても大体空いていますが、志度はいつ行っても絶対に停められません。なんかもう、定期的に置いている人もいるんじゃないかと思うくらいなので、やはりあれは広げていただいたりすると、移住して来た方なんか、バスを使って時々孫を見に大阪へ行ったりするようなことで、活用されるんじゃないかなと思います。これはぜひ、僕としてもありがたいなと思います。</p>
座長	<p>他にありますか。では次に行きます。</p>
委員	<p>観光でただ1回来るだけじゃなしに、こういう体験を通してずっと何度も来ていただくということが大事なことだと思うんです。だから、この体験貸し農園みたいな制度は、僕は大いにやるべきだろうと思います。イメージでいいますと、何も道具を持たないで来たら、そこに農機具なんか全部レンタルしてくれて、世話を教えてくれる人がずっといて、自分たちで種を植えて栽培するというふうに、たびたび訪れて、そのついでに津田の松原を見たり、源内さんのところをみたり、ということを通して、だんだん将来はこういうところに住めるといいなと思ってくれる、ひとつのきっかけにはすごくなると思うので、僕はこういうのは大いにやるべきだろうし、それほど難しいことではないと思います。</p>
座長	<p>今度はこれ、受ける側から、農業従事者から見たらどうですか。</p>
委員	<p>そうですね、私も子どもたちに対して体験農業などをしています。去年くらいから、野菜農家の方と一緒に、消費者に、お米のできる過程を全部教えている。田植え体験にはじまって、稲刈り、その間に色々野菜とか、あと乾燥したり、粃摺りしたり、こういうこと全てやらなきゃいけませんよ、ということを知ってもらおう。参加者は、結構、県外の人が多い。県外の若い、転勤で来られている方が参加されて、今年は、2、3歳くらいの子供がたくさんいました。泥に触れるっていうことを親がものすごく喜んでいてね。田植えなんかで泥んこになって、アメンボを追いかけて、田んぼなんかペタペタはいずりまわって、「あのまま放っておいていいんですか」と言うと、「いや、いいんです」と言う。やっぱりそういう体験をさせてあげたら親の方も喜んでる。なかなかできないんですよ、場所がないみたい。だからそういう体験をどんどん受け入れてくれるところが増えるといいかもしれない。でも、やる方は大変なんです、現状はね。だけど、やっぱり農家の我々のことも知ってもらいたいという思いがある。そういうようなこともあるので。最近はこの体験農業が一番いいんだと思います。</p>

委員	<p>僕も来週、9月終わり、棚田の稲刈りをする。栃木県なんかからも来て、田植えも、田起こしも、草刈りも、稲刈りもなさっている。最後は農村歌舞伎。栃木県によるところから家族4人、来られるんですよ。もっと近くに体験するところあるだろうと思うけどね。だから結構需要はあると思う。</p>
座長	<p>ありがとうございました。</p>
委員	<p>さぬき市暮らし体験ツアーだが、さぬき市の事業として取り組むからなかなかうまくいかない。旅行代理店に商品化してもらえれば一番早いよ。</p>
委員	<p>公務員がしようと思うからいけない。</p>
事務局	<p>体験ツアーは、大川観光に協力していただいています。</p>
委員	<p>岡山のとある企業では、地元の企業や農家とタイアップして、例えば、子どもに夏休みの宿題があることを利用して、ツアーを企画している。まず、加工メーカーに行き、木工の体験をする。その次に竹の収穫作業をする。あとは、例えば菓子メーカーで工場見学をするとかいう。これはJTBと、われわれの銀行も提携していますので、3社共同で行っている。参加費もとっての日帰りのツアー。その費用の足らず部分を市が補助金を出して、体験ツアーという形をとっているといった取り組みも行われている。</p>
座長	<p>次の若者の定住に関する項目に移ります。ご意見はございますか。ないようですので、次、結婚、出産、子育ての内容についてはいかがですか。</p>
委員	<p>子育てはぜひ力を入れていただきたい。先程のアンケート結果からも、それは如実に出ていますので、ぜひ力を入れていただきたいと思うので、これはしたほうがいいと思います。最後の話の子育ての支援ネットワークということで、そういうのをつくって、色々な角度からカバーできるようにするのも大事ですし、先程もあった、facebook などで情報発信とも絡ませていく。外に向いての情報発信と、内部に向けた情報発信、色々な制度とかの情報、女性とか市内の住民に伝わるようにがんばっていただきたいと思います。非常にいいことだと思います。その上でひとつ質問したいかなと思っていたのが、不妊治療の関係ですけど、これは県の施策の上に上乗せして、市としてもやっていきたい、ということですね。これもいいことだと思います。県のも国に上乗せしているけども、またそれも年齢制限があったりということなので、市として取り組まれるのは非常にいいことだと思いますのでぜひやっていただきたいと思います。</p>
委員	<p>出産して、会社に復帰してということがありますが、ハードの部分じゃなくて、ソフトの部分が大切かなと思っていて、まあ定時に帰るっていう制度がきちっと会社としてあっても、それが実際運用されていなければ全く意味がないですし、責任と権限のないところにやりがいが発生しませんし、やっぱり女性が生き生きと働くという観点から、責任と権限を持って、子育てしながらでも作業はやれますし、それを会社の中でどんなふうに支援していくかというところが一番大事だと思います。そして、この中では放課後児童クラブのことも書いてありますけれども、私が困ったのはもう10年以上前なんですけど、当時、市に要望書を出した経験があるのですが、当時は児童クラブがとても遠かった。幼稚園が終わった後、毎日親が迎えに行き、遠い児童クラブまで送っていかないと働くことができないような環境だった</p>

	<p>りして、いろんなジレンマを行政に訴えました。やはり、地域みんなで子育てをしていくことが大事で、そういうことに、市が取り組んでいくことが必要じゃないかなと思っています。</p>
座長	<p>続いて、福祉分野の視点から、子育てについて意見ををお願いします。</p>
委員	<p>子育てうんぬんというのは、まず、(母親が) 働ける環境を作るためにはどうしようと考えて、出産した後のフォローが一番大事になると思う。復帰をしたい女性の方々が産休をとったあと、復帰できるような状況に持っていくことが一番肝心だと思います。だから、どうしても企業内保育所が必要で、ここには書かれていませんが、そういうものを整備するための市の何かバックアップ体制をつくっていただくことが早いと思います。</p>
座長	<p>ありがとうございました。じゃあ次 34 頁、ワーク・ライフ・バランスについてご意見ををお願いします。</p>
委員	<p>ぜひここは推進をしていただきたいところであります。女性活躍の面からも、やっぱり男性中心型の雇用環境を変えていかなくてはいけないというのは、色んな場面で話が出ていまして、まず一番には長時間労働を解消していかなくてはいけないと思っていますので、例えば、このワーク・ライフ・バランスの 1 項目に挙がっています、推進企業に対して、市側から何かインセンティブが働くような仕組みを作るとか、あと行動計画の策定も、301 人以上の企業は義務となって、300 人以下の企業は努力義務となっていますけども、それを積極的に作っていった企業は、何かの形で優遇するとか、そういう何か、インセンティブが働く仕組みをぜひ考えていただきたいかなと思うところであります。あと、もう一つ、これはちょっと内部で話したら反対的な意見も出たんですが、私はいいかなと思ったのが、民間駐車場利用の補助です。この補助がどうのこうのというのではなくて、前にも言わせてもらったと思うんですが、高松市内に勤めている人が多いという中で、その人たちが、住居を構える地としてさぬき市を選んでいただけるようにする、勤め先は高松だけども、住み続けるのはこのさぬき市だっていうふうになるっていう仕組みはやっぱり考えていく必要があると思うので、まず 1 つとして、私はこのような取り組みもいいのか、と、思っているところです。あと、先ほど言い忘れたのですが、放課後児童クラブの拡充ですが、私どもで良く聞くのが、ハードとして、施設がなかなか整わない、整備できないという問題が 1 つあるのと、そこの勤める人たちが拡充を望まないという状況。要するに労働環境のところで、賃金が低いからそれを望まないということをよく聞かされますので、放課後児童クラブを拡充するのであれば、支援員に対してのなんらかの補助がないと、拡充が実現しないと思いますので、具体的な施策の実行に当たっての具体的な何か考えていかれる上では、この点について考慮いただきたいと思うところです。</p>
座長	<p>ワーク・ライフ・バランス、特に K P I 関係で何かありますか。では次、これも幅広いですが、多様性のある人材育成関係ですが、A L T の説明などは事務局に入れていただきたい。徳島文理大学では、地域学というのをやっています。特にご意見はございませんか。では次、37 頁、生きがいを持って安心して住み続けられる地域をつくるということで、結局ここは病気とご高齢の方へのケアということで、K P I は 38 頁にあります、ご意見はございますか。</p>

委員	<p>最後になりますけど、小さな拠点づくりというのが一番大事だと思います。それからですね、やっぱり児童とか高齢者、障がい者、大学生などが同じ拠点の中で生活できる拠点をつくる。一番いい事例と思っているのが、石川県にあります社会福祉法人佛子園の取り組み。あとで事務局にパンフレットをお渡ししたいと思いますが、先ほどの話では、さぬき市にも遊休地が色々あるように聞きましたが、石川県の社会福祉法人佛子園が国立病院の跡地を利用して、障がい者、障がい児、高齢者住宅を作ったんです。それが金沢大学の大学生のアトリエというか、そういうものにもなっていて、大学生の住居もそこに構えるというような形をとって、相当うまく動いております。ぜひご覧になっていただきたい。この小さな拠点づくりが一番大事だろうと考えますので、ぜひ進めていただければありがたいと思います。</p>
委員	<p>今日、初めて知ったことがあって、ダブルケアというのが問題になっているそう。子育てケアとお年寄りケアのダブルケア。3世代で住みなさい、住みなさいという話をしていると、女性も出産年齢が高くなっていきしているので、親の我々年代がケアしてもらわなきゃいけない。女の方は、子どもをしっかりと育てなくてはならない。このような中で悩んでいる方の相談窓口を作って、相談に乗ってあげる取組もしたほうが良いと思う。子どもを産みなさい、定住しなさいということばかり言うのではなくて、悩みがある方にはこういう窓口ありますよ、こういう支援もしますよということも、これからはおさら必要になってくるのではないかなと思います。</p>
委員	<p>いかに若者に地元の企業に就職していただくか、あるいは県外からの就職者を増やすかについての取組は非常に大事だと思います。それでK P Iの考え方ですが、マッチング件数の総数ということで31件。中身は、紹介状の発行件数ということでK P Iを考えているようなんですけれども、紹介状の発行件数というと、どちらかというとアウトプットの数字になってしまうので、できれば、マッチングというと就職につながる件数のほうが、成果がとれたていると思うのですがいかがでしょうか。</p>
座長	<p>やっぱり、成果件数の方が重要だと思います。紹介件数も、多ければ多いほどいいのですが。ありがとうございました。</p> <p>ざーっと流しましたが、本当に色々、有意義なご意見をありがとうございました。最後の42頁のところですけど、これは、総合戦略を、パブリックコメントなどを経て決定した後、P D C Aサイクルで有識者を含む外部検証機関等を設置して検証していくということで、ここの内容に関しては、我々としてはそうなんだ、という程度でよろしいですね。わかりました。</p> <p>それでは、今言っていた意見を踏まえまして、事務局は、パブリックコメント用に更新、ブラッシュアップ等をしていただきたいと思います。</p> <p>では、議題2番目となっておりますけど、事務局から配布されました人口ビジョンについて、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>&lt;説明&gt;</p>
座長	<p>これは、統計上の未来予測ですが、市民の方には、数字がたくさん出てきて、早い話が減るんだ、ってことですね。</p>
事務局	<p>そうですが、減るのを最大限押しとどめたい旨を書いています。</p>
委員	<p>県は、60万人に減るところを76万に引き上げると書いてあるが、どうするのだろう。</p>

座長	「こういう条件ならば」と書いてあるので、できるだけ減る人数を減らそうというところでしょうね。人口ビジョンに関しては、はいと言うしかないのですが、皆さんもよろしいですか。人口ビジョンで特に何かございますか。
委員	人口ビジョンではないのですが、以降の流れを確認したい。このP D C Aを回す部分と、この会議は、どういう関係なのか。この戦略は、計画期間が5年間ですよ。ビジョンっていうのは何十年か先まで、となっているので、このP D C Aのチェックの仕方や、5年後の案で出されていますK P Iとの比較や、どんな取組をしていくかという、イメージなりを教えてください。
事務局	戦略と人口ビジョンについては、本日、有識者会議の方に意見をいただきました。その後パブリック・コメントを出し、その結果を踏まえて、再度有識者会議を開き、議会で説明し、本部会議を開催して、最終決裁を経て10月中に策定となります。皆様方の任期は平成28年3月31日までとなっていますが、戦略は、毎年見直しを行っていきます。プランを立て、ドゥー、チェック、アクション、を戦略に書いている時期頃に毎年行っていく予定にしております。その時の検証機関としての組織は、別で事務事業評価を行っている、行政評価委員会との整合性も踏まえながら立ち上げることであります。こちらの検証機関で戦略の進捗状況やK P Iを毎年確認して、5年後、最終的にどうなったのかということも公表して行くような形になっていきます。
委員	毎年成果を公表するのですか。5年後だけじゃないということですか。ここに出ているK P Iは、5年後の目標値ですが。
事務局	そうです。毎年進捗状況を確認して、どういうふうになっているのかを検証します。事業によっては、再来年度とかからのスタートもあると思うので、5年後の目標値を出しています。公表のスタイルは今後検討しますが、毎年、この戦略の内容について検証していきます。その都度その都度、段階的にどうなっているかを見ていくということです。
委員	イメージしていたのが、5年後の数字をこの場で決めた方がいいんだけど、変わる要素があったとしても、その先の20年後の目標数値もあってもいいのかなと思った。なかなか5年で成果が出るものは少ないと思うので。なので、そこは記さないというのはどうなのか、持っていていいんじゃないか、というのをちょっと感じました。
座長	総合計画は何年でしたか。
事務局	12年です。基本計画は、4年スパンで、前期、中期、後期と作っていくことになっています。総合戦略は、おそらく31年度までで終わりではなくて、継続していくことになると思うので、その都度その都度計画していくようになると思います。
委員	変えなくてはならないところは変えなくてはならない。
座長	その他ですが、事務局のほうから何かございますか。
事務局	次回ですが、パブリックコメントが終わりまして、それを反映した内容で、ご意見いただくような形になると思います。

座長	時期は10月ですね。
事務局	そうです。
座長	10月中旬に、第4回目の会議をご案内させていただきます。あと、パブリックコメントを開始したというお知らせをいただきたい。
事務局	わかりました。
委員	パブリックコメントで一言。何十ページを超える資料が、ホームページ上のPDFで出るんですけど、あれ見て意見を言えと言われても難しい。できれば概略版とかを載せないと市民もわかりづらいのかな。例えば概略版があつて、そこをクリックすれば、そこに該当する内容につながるとか。少し工夫いただくようぜひお願いしたい。
座長	ご意見はもうよろしいですか。ないようですので、本日はありがとうございました。

< 閉 会 > ( 1 2 : 0 0 )